

心の成長

～勇気を持って一歩踏み出せば、一生の宝物を得ることができる～

人文学部 五藤真世さん（平成 25 年 3 月卒業）

★ギャップに悩む

「外見しっかりした人だね」と周りの人からよく言われてきましたが、中身はというととても弱い自分がありました。周りの期待に答えることが自分もみんなも幸せになることだという風に考え、周りの期待に背かないようにプレッシャーをかけていました。その分、心の弱い部分が見抜かれると、自分が自分でいられなくなるようで怖く、決して涙を見せることも、弱音を吐くこともしませんでした。自分の居場所を見つけることができず、このままではいけない、変わらないといけないという焦りが大学生になってからの半年間で急速に膨れ上がりました。

★転機の訪れ

そんな私に転機がありました。それは、1年生の夏休みに一歩〇〇合宿に参加したことです。参加者同士本音で向き合いながら本当の自分を模索する。本音を出すことをほとんどしてこなかった私。悩みに悩んだことを覚えています。しかし周りの仲間はすぐに本音で意見交換を始めました。そして、今まで座学しか受けたことのなかった私にとって彼らの話す技術は人を引き付ける魅力的なものであり、私もこうなりたい！と強く思いました。キラキラ輝いて見えた彼らの姿がその時の私の目標になりました。そして気付いたのです。自分が今まで抱えてきたのは中身のないプライドにすぎず、その壁を取り去ってしまえば、自分を変えることができる。

★変化をあきらめない

そこからの私は良い意味で積極的に行動できるようになり、本音で話をすることも、弱い自分を見せることも、そして何より、自分の気持ちに素直になることができるようになりました。そして一歩踏み出すことができた私は、CBI 授業に出会い、インターンシップへの挑戦を決意したのです。しかし、これが実現するためには長い道のりが待っていました。私は両親の期待通りの生き方をしてきたため、両親からすると、自分の意志で自分の決めたい道を歩もうと一直線に進んでいる（ある意味自律する）娘の姿に追いつけなかったのだと思います。これだけの反対を受けると、以前までの私だったら、もめ事を避け両親が納得する形をすぐにとっていたと思います。しかし、その時の私は自分に素直になると固く決めていたため、決して諦めることはありませんでした。親の前でプレゼンを行ったり何度も何度も向き合いました。正直この間に流した涙は量りしれませんが、こんなに強く

なれたのは、近くで見守ってくださった先生方の温かい支援、友人の励ましがあったからです。「親の反対も五藤の本気度を確かめるのに良いことだから、親に感謝しないと」という池田先生のお言葉も自分を奮い立たせる活力となりました。結果的に時間はかかりましたが、多くの方々の応援によりインターンシップを実現することができました。

★進化を実感する

1年生のあの瞬間、一步を踏み出していなかったらこのような強い自分を手に入れることはできなかったし、素敵な仲間に出会うこともなかったと思います。そして何より、自分を支えてくださる方の存在に気づけたのも大きかったです。自分の心の成長に伴い、色々な方への感謝の気持ちが芽生え、相手の気持ちにより添いながら支え合うことの大切さを学びました。また、インターンシップを決意した際はまさかこんな試練が待ち受けていたなんて想像もしませんでした。ここで大きな試練に出会えたことによって「なぜ」という物事を深く考えることの重要性に気づくこともできました。私自身、まだまだ未熟で手の届かないことも多いです。しかし私がそうだったように、いろんな悩みを抱えながらも一步踏み出そうとしているたくさんの方の良き支えとして、これから歩んでいきたいと考えています。